

講座で学んだ思い出の足跡

菱 沼 洋 子¹⁾

1. はじめに

SPP講座型学習活動「花崗岩を通して、地域を考える」の応募に向けPTA会員でもある長さんと相談を始めたのは、2006年11月のことでした。

2007年1月31日の打合せに提出された実施計画書案の綿密さ、地質標本館の青木館長さんを始めとする講師陣の充実さに気づき、ただ慌てるだけで何もできなかった私でした。ただ一つ、「生徒の反応を見ながら、講座の内容を柔軟に変更しながら進めていきたい」との青木館長さんの言葉に、「生徒の本音を書き記せる『つぶやきシート』のようなものを作りましょうか?」と提案しました。

用意した『つぶやきシート』は、きっと満足いただけるものではなかったと思いますが、毎回使用していただきました。生徒が書いた感想と質問を長講師がその都度取りまとめ、各講師が質問に真剣に回答されたことに、本当に感謝しています。

2. 講座の中で

Q1: 石はどうして石というのですか?

回答: ごめんなさい。わかりません。

「岩」は、「山」と「石」からできています。

「山」にある大きな「石」という意味だと思います。

「砂」は、「石」と「小」からできています。

「石」が小さくなったものという意味だと思います。

つぶやきシートへの長講師の回答より抜粋

この回答を呼んだ瞬間、私は、自分自身を教師として恥ずかしく思いました。私なら、この質問を聞き流してしまったことでしょう。しかし、講師の方々はこの例のとおり、終始、生徒のたわいもない小さなつぶやきに対しても耳を傾け、真剣に指導されました。理

科に関してだけでなく、私の日頃の教師としてのあり方も学ぶこともできました。

3. テーマに沿って

理科を重視した講座では、「五感で感じる」まさしく普段の授業とぴったりのテーマで始まり、「強さ・硬さ・石の目」と徐々に専門的な話への展開となっていたので、生徒達も違和感なく学習していけたと思います。私自身にとっても、話に吸い込まれていく学びの多い学習でした。

次に、「花崗岩の組成」で石の美しさを学びました。1年生の2月頃に、火成岩について学習するので、2年生にとっては復習と発展を兼ねた親しみやすい内容でした。

「建築・芸術での使用例」では、駅周辺や公園など身近な場所でも花崗岩が利用されていることを学び、夏休みの宿題として、身近な場所での花崗岩の活用を発見・調査してくるようになりました。

「市内の花崗岩」では、夏休みの宿題の解答のように説明を受け、外国から来ている花崗岩も多いことを知りました。生徒の調査結果も情報交換されました。母校である小学校や近隣の公園の中に再発見をし、理解を深めた時間でした。

「花崗岩と地下水」では、一口に地下水といっても数年～数万年もかける物もあることを初めて知り、水の大切さを痛感しました。軟水と硬水の利き水も経験し、生徒も楽しそうでした。

「石像史跡巡検」では、歴史的石像物からも800年の歳月が流れているということを学びました。実際に足を運びその大きさを目の当たりにしたことは、石彫に対する関心を深め、またその重みを理解するにも最高の経験だったようです。

いずれも、今私達が取り組んでいる花崗岩の石彫

1) つくば市立手代木中学校 (科学部顧問)

キーワード: SPP, 花崗岩, 手代木中学校, 科学部, つぶやきシート, 足跡



写真1 楔を入れ岩石を割る様子を見学。



写真2 浅賀先生の岩瀬石彫展覧館にて。

は、地球の長い歴史に刻み込む一打ちであり、今後数百年残りうる作品にすべき、価値あるものであることに気づききっかけとなったはずです。講座のひとつひとつのどのステップも省くことができない、貴重な学習であることが分かりました。

「ストーンフェスティバル」バス巡検に参加して、花崗岩の発破現場を目の当たりにしたこと、楔が石の目に沿って打ち込まれ重い岩石がきれいに割れる瞬間を見学できたことは(写真1)、生徒にとっても私にとっても衝撃的な出来事でした。

「石の目に沿って楔を入れるのです。」現場の方からも教えてもらいました。この日まで、地質標本館の先生方からも浅賀先生からも『石の目』の話は何度も聞いていましたが、私にはまだそれが見えません。自分の未熟さを痛感したこの日でした。

4. 石彫を学んで

石彫の指導を担当される浅賀正治先生が彫刻家であり岩瀬石彫展覧館の主宰者であることは、知識として知っていました。浅賀先生の生徒への指導を見て、その偉大さを心で理解することができました。

先生の生徒への語りかけは、生徒の興味を引き出し「自分にも出来るかな？ やってみよう！」という自信を持たせます。マジックのように感じました。何も知らない私達が、線を掘り・面を落とせるようになるまで、一人一人の間を歩きながら丁寧に指導されました。ブルガリアで賞を受賞されてから、「恩返し」の目的で、国内外の彫刻家の方をご自分のアトリエに招待され、交流や指導をされている先生の温かさを肌で感じる事ができました。その熱意を、何の知識も

技術もない私達にも同様に向けてもらったのです。

ストーンフェスティバル巡検の最後に岩瀬石彫展覧館を見学しました。館長である素敵な奥様と可愛いお子さんにも一緒に迎えられました。温かいご家族の様子は、先生の人柄そのものでした。また、先生の作品の数々、お弟子さんやブルガリアから来られた皆さんの作品の数々、必要な装置のスケールの大きさなど圧倒されるものばかりでした。今、先生が発注を受けて仕上げている作品(写真2)の大きさとリアルさにも愕然とした私達でしたが、今私達が作らねばならないのは何なのか、本当に分かったひとときでした。

5. おわりに

今回の企画の受講生は、時間の設定の都合から全講座を受講できる可能性のある科学部と美術部部員としました。3年生も含めて興味を持つ希望者を募ることができたら、もっと充実した活動にできたかと思えます。

「何やってるの？ いいなあ！」他の生徒から漏れる言葉です。完成までに一彫りでもさせてあげたくります。今回の講座で学んだ思い出の足跡を、手代木中学校に残せる喜びをひしひしと感じています。

地質学の専門家である産業技術総合研究所地質調査総合センターの職員の方々、かすみがうら市郷土資料室の千葉先生、石と会話の出来る浅賀先生という素晴らしい皆さんから、綿密な計画の下、指導をうけた贅沢に心から感謝しています。

HISHINUMA Yoko (2008) : Memories of SPP classes.

<受付：2008年1月15日>